

令和8年 飯田市教育委員会2月定例会会議録

令和8年2月13日（金） 午後3時00分開会

【出席委員】

教育長	熊谷 邦千加
教育長職務代理者	北澤 正光
教育委員	野澤 稔弘
教育委員	林 綾子
教育委員	麦島 真理子

【出席職員】

教育次長	秦野 高彦
副参事兼中央図書館長	瀧本 明子
教育政策課長	上沼 昭彦
学校教育課長	伊藤 寿
教育センター所長	北澤 孝郎
生涯学習・スポーツ課長	後藤 武志
文化財保護活用課長兼考古博物館長	下平 博行
市公民館副館長	小林 和弘
文化会館副館長兼新文化会館整備室長	筒井 文彦
美術博物館副館長	槇村 洋介
歴史研究所副所長	牧内 功
教育政策課総務係長	北澤 五月

日程第1 開 会

○教育長（熊谷邦千加） 時間になりますので、2月の教育委員会定例会を開催いたします。よろしくをお願いします。

日程第2 会期の決定

○教育長（熊谷邦千加） それでは「会期の決定」を議題といたします。

本定例会の会期につきましては、本日2月13日の1日間としたいと思います。ご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、本定例会の会期は、本日2月13日の1日間に決定をいたします。

次の日程に進みます。

日程第3 会議録署名委員の指名

○教育長（熊谷邦千加） 会議録署名委員として、北澤正光教育長職務代理者を指名いたします。

○教育長職務代理者（北澤正光） はい。

○教育長（熊谷邦千加） よろしくをお願いします。

次の日程に進みます。

日程第4 会議録の承認

○教育長（熊谷邦千加） 「会議録の承認」、1月定例会の会議録につきまして承認を求めます。

あらかじめ、原案を各委員のほうにお送りしてございますが、内容につきましてご異議等ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、1月定例会の会議録は、承認をいただきました。

次に進みます。

日程第5 教育長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第5、「教育長報告事項」。

「2月教育委員会定例会 教育長報告事項」の資料のほうをご覧ください。

旧上村中学校、上村小学校のお隣の校舎の1階に保存されている長谷川善和博士のコレクションが、委託されて置いてあるんですが、それを拝見してまいりました。

現生生物の骨格標本というと、例えば牛とかそういったもの、骨ですね。そういうものも今生きている標本から古生物の標本。具体的にはナウマンゾウの化石とかアンモナイトとかですね、三葉虫の化石まで、何万年も生物の歴史を証明する資料がいっぱい並べられているのですが、一応、陳列棚みたいにガラス越しに見えるところと、その下に引き出しのようになっていて、そこに収められているところがあるんですが、見えるものだけでも結構な量がございます、一部は追手町小学校のところにも飾られているものもございます。

いずれにしても、見応えのあるものがたくさんありまして、その数も5,000を超えるということでもあります。今回、委託されていた標本を寄贈していただけるという話が進んでおります。

書籍も並んでいるのを拝見してきましたが、書籍等も寄贈していただけるということで、ものすごい量があります。やっぱり研究者の皆さんはたくさん蔵書をお持ちなので、それも見てまいりました。その中に恐竜の本、子ども向けのものがあるんですが、そこには、長谷川先生のお名前が入っているものもたくさんありました。名前がなくても、その恐竜の本を書かれている皆さん方は、この長谷川先生の教えを受けている、そういう方だということ、今回知ることができました。いずれにしても、その古生物の研究においては日本における第一人者ということでもあります。

2月3日に、美博の副館長さんの手配をいただいて、直接お行き会いしてお話を伺うことができました。96歳ということなんですが、とてもお元気で、今も毎日美術博物館で研究をされておられるということです。最初にお話いただいたのは、「ぜひこのコレクションを飯田市で価値あるものとして展示していただくことで、価値がまた高まっていく」と。ぜひ、自然博物館というのはなかなかないんですが、「いずれはそんなふうになるといいな」というようなお話もいただきました。

たくさんあるので、沖縄にも寄贈したものがあるそうですが、長谷川先生の恩師でもある鹿間先生、どちらも飯田市出身で、長谷川先生は千代の出身でいらっしゃるんですが、その鹿間先生の持っていらっしゃるものも入って、全部で5,600点余の標本を飯田市に寄贈していただけるという今、方向でございます。

ちょうど、その頃、1月31日に信濃毎日新聞や中日新聞、日本経済新聞に取り上げられ

たものがありまして、「この日本はライオンの生息地だった」という、記事がございます。その研究の元になっている骨が、これ（写真）がその化石標本なのですが、実はこれを長谷川先生が科学博物館からお借りしてお手元にあり拝見しました。長谷川先生はじめ、様々な先生方が研究されているんですが、元々は虎の化石だというふうに分析をしていたそうです。今回、海外の化石を分析するところへ送って分析してもらった結果が出て、ライオンだということが分かったそうです。日本はライオンの生息地だったというのが新聞報道されました。この写真の頭蓋骨のほかの骨もあるんですが、そうした標本となるものが日本でも3カ所の地域で出ていることから、ライオンが群生していたということがわかったというお話を聞いて、大変興味深く感じました。

いずれにしても、虎だと思ったのがライオンだということが分かって、最近分かったということでニュースにもなったものでありますが、そこに行くまでの過程をいうと、やっぱり今生きている動物の骨と比べながら、これは何の化石なんだということを分析したり推測したり、部分的な骨を見てこれはどこの部分の骨だとか、そういう研究をやるということで、美術博物館の研究室には本当に所狭しとこの標本が並べてあって、とても私も刺激を受けたなと思っております。

また回しますので、お読みいただければなというふうに思います。

私からの報告は以上でございます。

何かご質問、ご発言等ありましたらお願いいたします。

よろしいでしょうか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

いずれにしても、菱田春草、それから田中芳男と、飯田市出身で大変有名な方がいらっしゃるんですが、それに次ぐような研究をされている方と言ってもいいのかなということを感じておるところであります。

日程第6 議案審議（3件）

○教育長（熊谷邦千加） では、続きまして日程の第6にまいります。「議案審議」に入ります。

議案第4号 学校歯科医の任命について

○教育長（熊谷邦千加） 最初に、議案第4号、「学校歯科医の任命について」を議題といたします。

伊藤学校教育課長。

○学校教育課長（伊藤 寿） 6ページをご覧いただきたいと思います。

議案第4号、学校歯科医の任命について、ご説明をいたします。

学校保健安全法第23条第2項及び同条第3項に基づき、千代小学校、川路小学校及び三穂小学校の学校歯科医として今村亮祐氏を、下久堅小学校及び竜峡中学校の学校歯科医として志柿 信氏を、鼎中学校の学校歯科医として上松隆司氏を任命したいとするものでございます。

提案理由は、飯田下伊那歯科医師会から、学校歯科医の交代による適任者として推薦があったため、令和8年4月1日付で任命したいとするものでございます。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） この件につきまして、ご質問、ご発言がありましたらお願いいたします。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） それでは、この件についてご意見ございませんか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

それでは、本案を原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

（「異議なし」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、議案第4号は、議案のとおり決定をいただきました。

議案第5号 飯田市立小・中学校職員服務規程の一部を改正する訓令の制定について

○教育長（熊谷邦千加） 続いて、議案第5号、「飯田市立小・中学校職員服務規程の一部を改正する訓令の制定について」を議題といたします。

伊藤学校教育課長。

○学校教育課長（伊藤 寿） 7ページをご覧いただきたいと思います。

議案第5号、飯田市立小・中学校職員服務規程の一部を改正する訓令の制定について、ご説明をいたします。

教職員の地域活動への参加促進及び仕事と育児の両立支援を一層拡充するため、長野県教育委員会からの通知に基づきまして、飯田市立小・中学校職員服務規程の一部を改正す

るものでございます。

改正の内容につきましては、教職員が地域の団体が行う地域に貢献する活動に従事する場合の特別休暇として、地域貢献活動休暇が新設されたことに加えまして、地方公務員の育児休業等に関する法律の改正に伴う子育て部分休暇の新設・部分休業の対象拡大を反映するため、規定及び様式を整備したいとするものでございます。

14 ページから 15 ページにつきましては、新旧対照表でございまして、新たに追加、または改正する部分につきましては、下線でお示ししてございます。

13 ページにお戻りをいただきまして、附則につきましては、施行期日を定めるものでございますが、この訓令は公布の日から施行し、令和 7 年 4 月 1 日以降に申請を行う者に適用したいとするものでございます。

資料の 29 ページ以降、長野県教育委員会からの通知を添付してございますが、地域貢献活動休暇につきましては、令和 7 年 4 月 1 日から、部分休業については、令和 7 年 10 月 1 日から施行されているところでございますが、こちらが必要な事務手続きを失念しておりましたため、今定例会での提案となりましたことを、この場をお借りしまして深くお詫び申し上げます。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

野澤教育委員。

○教育委員（野澤稔弘） 質問ですが、子育てのこの定義みたいなものはあるのでしょうか。何歳以下とか。

○教育長（熊谷邦千加） 伊藤学校教育課長。

○学校教育課長（伊藤 寿） すみません、この部分は小中学校までなのか、高校までだとかというのは、確認をしてなくて、改めて確認をさせていただいて、報告をさせていただければと思いますので、少しお待ちいただければと思います。

○教育委員（野澤稔弘） かしこまりました。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

さらにございませんか。

定例会の中で答えられれば答えますが、すみません、ちょっとお時間いただければと思います。

そのほかよろしいでしょうか。

(発言する者なし)

○教育長（熊谷邦千加） それでは、この議案第5号を採決いたします。

本案を、原案のとおり決定することにご異議はございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、議案第5号は、原案のとおり決定をいただきました。

議案第6号 令和7年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして、議案第6号、「令和7年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について」を議題といたします。

伊藤学校教育課長。

○学校教育課長（伊藤 寿） それでは35ページをご覧くださいと思います。

議案第6号、令和7年度飯田市就学援助費支給対象者の認定について、ご説明をいたします。

認定対象者につきましては、別紙のとおりでございます。

それぞれ記載いたしました認定要件にて、飯田市就学援助費支給要綱第5条第1項の規定によりまして、飯田市就学援助費の支給対象者として認定くださいますようご提案を申し上げます。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまの説明につきまして、質問、ご意見等はございませんか。

(「ありません」との声あり)

○教育長（熊谷邦千加） それでは、この議案につきまして、原案のとおり決定することにご異議ございませんか。

(「異議なし」との声あり)

○教育長（熊谷邦千加） ご異議なしと認めます。

よって、議案第6号は、原案のとおり決定をされました。

以上で、議案については、審議を終わりたいと思います。

次の日程へ進みます。

日程第7 協議事項

○教育長（熊谷邦千加） 日程の第7、「協議事項」。

協議事項1 飯田市共同学校事務室推進計画（結いプランⅡ）の制定について

○教育長（熊谷邦千加） 最初に、協議事項1「飯田市共同学校事務室推進計画（結いプランⅡ）の制定について」を議題といたします。

伊藤学校教育課長。

○学校教育課長（伊藤 寿） まずは資料ですが、データの別添資料No.1と資料No.2をお開きいただきまして、こちらの2つの資料で説明をさせていただきたいと思います。

本日は、共同学校事務室の統括室長であります松尾小学校の櫻井事務長にお越しをいただいておりますので、櫻井統括室長より飯田市共同学校事務室推進計画（結いプランⅡ）の策定についてをご説明をさせていただきますので、よろしく願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） それでは、お願いいたします。

○飯田市共同学校事務室統括室長（櫻井貴美子） お願いします。

飯田市共同学校事務室統括室長を務めさせていただいております、松尾小学校の櫻井と申します。よろしく願いいたします。

○飯田市共同学校事務室第3室長（佐々木千夏代） 飯田市共同学校事務室第3の室長をさせていただいております伊賀良小学校の佐々木と申します。よろしく願いいたします。

○飯田市共同学校事務室統括室長（櫻井貴美子） 2人で説明させていただきたいと思いますのでお願いします。

資料2種類ということでお話させていただきます。少し行ったり来たりさせていただきたいと思いますのでご了承ください。

それでは、まず別添資料No.1のほうから始めていきたいと思います。その2ページからお願いします。

飯田市共同学校事務室は令和4年4月に設置されております。こちらにあります「適正化」、「効率化」、「人材育成」は当初の取組の内容となっております。

別添資料No.2のほうにちょっといただければでしょうか。

そこの1ページ目にありますものは、設置当初の設置計画、通称「結いプラン」というものとなっております。

めくっていただいて2ページには、当初の体制図となっております。この4年間、この結いプランと体制図に沿って活動してまいりました。

2ページの体制図をご覧くださいますと、3つの共同学校事務室が設置されておまして、それぞれが独立した組織として活動を始めました。そして、その3つの事務室の室長

の中から1人が統括室長となり、連絡調整をするという立場でまいりました。その統括室長の所属校には、県費加配職員が配置され、現在も私の所属する松尾小学校に1名の加配をいただいているところです。

上の別紙1ページのほうに戻っていただきますと、この4年間は、結いプランの左下に書かれております「導入期」として、資料にもありましたとおり、「適正化」、「効率化」、「人材育成」とともに、事務機能の強化に取り組んできたところです。

先ほどの資料No.1のほうへお戻りいただけますでしょうか。3ページをお願いします。

○飯田市共同学校事務室第3室長（佐々木千夏代） 各共同学校事務室の活動について報告します。

3つの共同学校事務室に共通していることとして、月1～2回の参集では、共同実施の事務処理をはじめとし、疑義事項を出し合い、全体で課題を共有するなど、有意義な時間としています。週1回のオンラインでは、主に情報共有を行い、業務の確認や相談事等の時間としています。これらは事務処理の適正化・効率化につながっています。

3つの共同学校事務室の特徴は、資料にまとめてあるとおりです。それぞれの特徴を生かし、活動してきました。

学校を不在にする際には、学校内でご理解いただいて活動をさせていただいております。それに報いるような成果や事務職員のスキルアップ、学校運営への参画を目指していきたいと思っております。

○飯田市共同学校事務室統括室長（櫻井貴美子） このように、3つの共同学校事務室がそれぞれ試行錯誤しながら活動してきましたが、課題も見えてきました。

また、資料のNo.2のほうをお開きいただけますでしょうか。この3ページをお願いします。

これは設置計画の「結いプラン」を基に推進計画として作成した「結いプランⅡ」となっています。

元の「結いプラン」から設置前の課題や期待される効果は引継ぎ、下から2つ目の導入期の右側に、この4年間の成果と課題を記載しています。

この内容を、別添資料No.1のほうの4ページに要約してありますので、そちらの資料で説明させていただこうと思います。もう一度、No.1の資料のほうへお戻りください。

成果としまして、事務処理の適正化に効果があったこと、効率化が図られ始めていること、事務室間の連携、情報共有の始まり、市全体の研究課題が見え始めていることなどが挙げられます。

一方、課題としましては、事務室ごとに課題を検討しているだけでは、市として統一した結論を導き出すことの難しいことや、参集して共同処理できる業務に限界を感じ始めており、今後の負担軽減には新たなアプローチが必要であることなどが挙げられます。

これらの課題を解決する方法として、今年度の試行として次の5ページにありますとおり、業務別担当者会と研究部会という組織を設置して活動してみました。

組織全体の見える資料を別添資料No.2の4ページのほうに用意させていただきました。

これは本年度の業務分担表です。左側の業務別担当者会は、業務ごとに分担をし、各共同学校事務室で担当を置いております。右側の研究部会ですが、今年度は試行として就学援助事務、学校集金、公費予算、それぞれの業務改善という3つの研究部会を立上げ、教育委員会の皆さんとともに研究に取り組んできたところです。

どの部会も3つの共同学校事務室の連携だけでは解決の難しい、市として統一した検討が必要な課題を研究することができました。

別添資料No.1のほうへお戻りいただきたいと思います。6ページになります。

このように試行した上で、来年度からの計画を次のように考えました。先ほど見ていただきました推進計画「結いプランⅡ」の中から抜粋しています。「導入期」の次、「充実期Ⅰ」に来年度から移行したいと考えております。この「充実期Ⅰ」では、教員、保護者、教育委員会等の負担軽減に向けて取り組んでいきたいと考えています。もちろん、導入期で実施してきました活動は維持した上で、試行してきました業務別担当者会と研究部会を定着させ、教育事務に関わる負担軽減等の研究に取り組んでいきたいという計画を立てました。

次の資料7ページをお願いします。

来年度からの「充実期Ⅰ」の活動について計画したところですが、取組の段階を変更したことで、目指す姿についても変更したいと考えました。業務の集中処理のみの活動から、共同処理に加え、市全体の業務改善に取り組む組織として活動していきたいと考えています。3つの独立した組織ではなく、市全体の活動を増やす中で、統括室長は、市全体の業務に当たることができる環境が必要となってきました。ですので、活動内容を変更するに当たり、体制の変更が必要となってきております。

8ページは、その組織の変更について記載した図であります。

変更前と変更後の比較できる資料を別添2のほうの資料の5ページに用意させていただいております。これでご覧ください。

○飯田市共同学校事務室第3室長（佐々木千夏代） 体制の変更内容についてお話をさせていただ

きます。

上段、令和6年度の図をご覧ください。発足時よりこの体制で運営をしてきましたが、業務を進める中でいくつかの課題が出てきました。その課題を解決するために、4つの変更点を考えました。

- ①統括室長は、室長と兼ねない。
- ②運営協議会へ副室長を加える。
- ③研究部会を設ける。
- ④業務別担当者会を設置する。

以上を踏まえて、下段、新飯田市共同学校事務室体制とし、本年度試行を実施しました。来年度からは本格実施していきたいと考えております。

○飯田市共同学校事務室統括室長（櫻井貴美子） 元の資料1のほうの9・10ページには、私たちの願いをまとめたもの載せてあります。

「すべての子どもたちのためにつながる活動を」という願いのもとに取り組んでいきたいと思っております。

以上、来年度から新しい推進計画「結いプランⅡ」と、新しい体制で活動していきたいと考えている内容について説明させていただきました。

ありがとうございました。

○飯田市共同学校事務室第3室長（佐々木千夏代） ありがとうございました。

○教育長（熊谷邦千加） ただいまの説明につきまして、ご質問、ご意見ありましたらお願いをいたします。

野澤教育委員。

○教育委員（野澤稔弘） すみません、門外漢なので。

この共同学校事務室が担う具体的な業務を、大きいところで結構ですので教えていただければと思います。

○飯田市共同学校事務室第3室長（佐々木千夏代） 各共同学校事務室では、各学校の教員の給料等の・・・等の確認をして、間違いのないようにっていう、それは一つの種類ですが、ほかの書類についても持ち寄って、お互いに間違った処理がされてないかというところで確認をし合って、適正な処理するというを集まったときにはしております。

そのほかも、全ての私たちが携わっている事務処理について情報共有を、私たちは元々1校に1人、多くても3人という環境の中で情報が少ない中ですので、その情報共有を大事に行っております。

よろしいでしょうか。

○教育委員（野澤稔弘） その情報の中身というのは公にはできないような話ですか。どういったものを業務としてやられてるか具体的に教えていただけませんか。今のお話ですと、先生方の給与計算をされているというふうに私は理解しましたが、それ以外に何かやられていますか。

○飯田市共同学校事務室第3室長（佐々木千夏代） それ以外ですと、例えば、各学校で学年会計を保護者の方からお金をお預かりして、それを会計させていただいておりますが、その執行の仕方、各学校の中でどのようなルールにしていくか、そういうことの情報共有をしたり、書類手続きが正しいものであるかということをお互いに確かめ合ったりしています。よろしいでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） よろしいですか。

○教育委員（野澤稔弘） ありがとうございます。

学校で行われるお金の出納を担っていると理解しましたが、それでよろしいでしょうか。

○教育長（熊谷邦千加） そうですね。通常、1人の事務の先生がやっていることを大勢というか、共同でグループでチェックし合ったりとか、この手続きは正しいかとか、そういうことを、ほかのこれ飯田下伊那、飯田市では特に一生懸命先進的にやっていただいているんですが、大きなところで他の市町村にいくと、1人でやってたりするんですが、そこをあえて皆さんでチェックし合って、ミスをなくして、正しい執行ができるようになっていうことをやっていただいているので、ここでは給与から様々な事務処理、事務の先生がやっていることをお互いにチェックし合ったりするということかなと思います。

よろしいですかね。

○飯田市共同学校事務室第3室長（佐々木千夏代） はい、ありがとうございます。

○教育委員（野澤稔弘） ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） 伊藤学校教育課長。

○学校教育課長（伊藤 寿） 私のほうから1点お願いいたします。

今の事務に加えまして、例えば消耗品だとかそういうものを発注・注文するとき共同で購入するとか、そういったものは当然させていただくような形をとってございます。

それから、今回も説明いただいたとおり、少し体制が変わるものですから、関連する例規の改正については、来月の定例会でご提案をさせていただきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） 一番は、この組織、今まで室長さんが統括室長を兼ねていたこと兼ね

ずに独立してやるという組織と、研究部会を改めて、課題別だと思うんですが、立上げていくと。そのことによって、単なる事務処理というよりは、この教育活動の支援という、今、教員の仕事の3分類というような方向で、すべき仕事としなくてもいい仕事ってなっているわけですが、そういう部分にも関与する部分も出てくるんじゃないかなというふうに思いますが、ただの事務処理ではなく、学校の子どもたちに関わることが学校の支援につながるようにしていきたいと願っていらっしゃるということでもあります。

ほかよろしいでしょうか。

林教育委員。

○教育委員（林 綾子） いつも学校事務の方にはお世話になっていると思うんですが、皆さんでこうやって研究していただいて、いろいろな課題を見つけて、そこをどういうふうに市全体として解決していくかということ考えていただくということで、非常にありがたいと思うんですが、逆に事務の方のご負担があまりに増えるということはないのかなと心配しております。

今までの共同学校事務運営協議会というのを引き続きで、ちょっと体制を変えるということですので、大丈夫だとは思いますが、あまりに事務の方にご負担がないのかなということが1点心配なのと、これゆくゆくは今、教育長からもありましたが、学校の教職員ですとか、あとは保護者もそうですが、いろいろな書類を手書きで一生懸命提出させていただくわけなんです、そういうところにも負担軽減みたいところにつながっていくのかな、いくといいなと思っています。教職員の方の事務処理、あるいは全体の皆さんの事務処理が効率化されていくといいなというふうに、これは単に希望ですが、感じました。

○教育長（熊谷邦千加） そのことについて、統括室長。

○飯田市共同学校事務室統括室長（櫻井貴美子） 今、貴重なご意見をいただきました。

そういったことも含めて研究を進めて、市の学校事務職員だけではなくて、教育委員会も含めて開拓していくっていうことを考えております。

○飯田市共同学校事務室第3室長（佐々木千夏代） ありがとうございます。

○教育委員（林 綾子） 皆様のご負担は大丈夫ですか。

○教育長（熊谷邦千加） 負担は。

○飯田市共同学校事務室第3室長（佐々木千夏代） ありがとうございます。

私たちにとっても効率化になるような研究をしていきたい。この研究過程は少しちょっと負担があるかもしれませんが、結果的に自分たちも含め、関わる皆さんの負担軽減になっていくような研究をしたいなと思っています。

○教育委員（林 綾子） ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） ほかよろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

それでは質疑がなければ、この議題、協議につきましては以上とさせていただきます。

ありがとうございました。

○飯田市共同学校事務室統括室長（櫻井貴美子） ありがとうございます。

○飯田市共同学校事務室第3室長（佐々木千夏代） ありがとうございます。

協議事項2 令和7年度卒業式及び令和8年度入学式教育委員会の告辞について

○教育長（熊谷邦千加） では続きまして、協議事項2「令和7年度卒業式及び令和8年度入学式教育委員会の告辞について」。

伊藤学校教育課長。

○学校教育課長（伊藤 寿） それでは36ページをご覧いただきたいと思います。

令和7年度卒業式及び令和8年度入学式教育委員会の告辞について、説明をさせていただきます。

前回の定例会でお願いをいたしまして、教育委員の皆様よりいただきましたスケジュールを基に、各小中学校の令和7年度卒業式及び令和8年度入学式につきまして割り振りをさせていただきましたので、ご確認をお願いいたしたいと思います。

到着時間、集合時間、開式時間等は記載してございますが、詳細は各学校から案内が届き次第お送りいたしますので、改めてご確認をお願いいたしたいと思います。

前回の繰り返しとなりますが、教育委員会の告辞は、学校の設置者としての立場で、学校長式辞より先に位置づけられておりますので、よろしくをお願いいたします。

説明は以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） このことにつきまして、ご質問、ご意見がありましたらお願いいたします。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） よろしいでしょうか。

それでは、いろいろお世話になりますが、ここにいる各課・館所の課長、所長、副所長等お世話になりますが、よろしくをお願いいたします。

続いて、北澤教育センター所長。

○教育センター所長（北澤孝郎） 先ほどの学校教育課長より、令和7年度の卒業式分担、令和8年度入学式の分担がありました。その告辞の案について、少しでもお話をさせていただきたいと思います。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

○教育センター所長（北澤孝郎） 式典の告辞案、それぞれご覧いただきたいと思います。

○教育長（熊谷邦千加） 開きましたでしょうか。

大丈夫ですか。

○教育長職務代理者（北澤正光） はい。

○教育長（熊谷邦千加） 林さんもよろしいですか。

○教育委員（林 綾子） はい、大丈夫です。

○教育長（熊谷邦千加） では、お願いします。

○教育センター所長（北澤孝郎） よろしく申し上げます。

今年度の告辞案、小学校・中学校と卒業式・入学式とございます。

まずは卒業式のほうであります。変えたといいますか、今まで元の文書がございましたが、こんなふうに変えたということをお願いしたいと思います。

まず、1行目、「本日ここに〇〇学園」、この「〇〇学園」というのを「飯田市立〇〇小学校」、あるいは「中学校」の前に「〇〇学園」という名前を入れました。

そして真ん中辺りに進んでいただきまして、「保護者の皆様」の次に、「地域関係者の皆様をはじめ、ご来賓の皆様」という部分がございます。昨年、実は麦島教育委員さんが行かれて、そこで地域関係者の皆様から私たち宛への言葉というのは、そのままいただいてきたということを受けまして、ここに最初は「ご来賓の皆様」だけだったんですが、その前に「地域関係者の皆様をはじめ、ご来賓の皆様」というふうにさせていただきまして、ここの段の2行目、そうするとこれを受けて「皆様のお力添えに地域の良さを生かした教育活動が行われた」ということに「心から感謝申し上げます」とつながるように構成をし直しました。あとは、これまでのものと変わっておりません。これが小学校版と中学校版でございます。

そして、続きまして、今度は入学式のところになります。

これは、本年度の入学式から既に1行目に「〇〇学園」というふうに入れさせていただいておりますので、ここの変更はございません。

中段、「地域関係者の皆様を」というところを最初に持ってまいりまして、それが2行目、3行目へつながっていくという構成に直しました。

あとは今までのものと同様でございますが、中をご覧いただきまして、ご意見等を頂戴して、またよくしていきたいと思っております。

どうぞ、よろしく願いいたします。

○教育長（熊谷邦千加） 告辞案につきまして、卒業式・入学式、小・中それぞれございますが、お気づきの点、修正したほうがいいんじゃないかというところがありましたら、ご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。

昨年も申し上げましたが、本来の告辞って、よく高校の校長先生がよく使う「男子何名、女子何名、入学を許可する」みたいな紋切り調のものなのですが、飯田市教育委員会とすると、それよりは祝辞に近いものになっていますが、メッセージを告辞としてお伝えするというふうな形で、このような形をとって一昨年くらいからやっております。

よろしいでしょうか。

（「ありません」との声あり）

○教育長（熊谷邦千加） また時間ありますので、何かお気づきの点があったら、あとでもお申し出いただければと思います。

以上で協議事項のほうは終了といたします。

先ほどの回答を。

○学校教育課長（伊藤 寿） 先ほど、野澤委員からご質問がございました、子育て部分休暇と部分休業の関係を説明させていただきます。

一緒にして説明をしてしまいました。申し訳ございませんでした。

部分休業につきましては、これまでもございまして、主に小学校入学前までの園児等の子育てのための部分休業でございますが、子育て部分休暇については、小学校の入学から満9歳、三年生までの間に新たに取得することができるという、法律の改正がございましたので、その部分をこの中に反映させていただいたというものでございます。

以上でございます。

○教育委員（野澤稔弘） ありがとうございます。

○教育長（熊谷邦千加） 野澤委員よろしいですか。

○教育委員（野澤稔弘） はい。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

じゃあ、協議事項については、以上で終わりにしたいと思います。

○教育長（熊谷邦千加） 日程第8、「陳情審議」でございますが、本日はございません。

次の日程に進みます。

日程第9 その他

○教育長（熊谷邦千加） 日程第9、「その他」。

(1) 教育委員報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 「教育委員報告事項」。

それでは、教育長職務代理者、教育委員の皆様方からご報告がございましたら、順不同でご発言いただければと思います。いかがでしょうか。

では、林教育委員さんからお願いします。

○教育委員（林 綾子） 2点、ご報告があります。

1月25日、日曜日に人形劇場で人形劇の定期公演を娘と拝見してまいりました。

2つのグループが出てきましたが、1つ目が高校生の2人組で、人形劇のユースクラブに所属していた方たちです。「星降列車」というふうに読むのかな。

大変幻想的な内容で、人形も小道具やセットも一から制作されたそうで、1年半準備されてきて、初めて上演されたということでした。高校の二年生と三年生ですので、高校生活のうちの1年半を人形劇に注いでくれたということで、なんか嬉しくなりました。

とても夢のような夜の電車の風景みたいな形で、すごくお二方のキャラクターに合ったような形なのかなと思いましたが、とても素敵な雰囲気のある人形劇でした。

もう1グループが飯田短大の学生さんのグループでした。ちょっと体調を崩されたお子さんがいて、先生がピンチヒッターで出ていらしたのも印象的でしたが、もう二年生ですので、この春から保育士さんになる学生さんたちだそうです。ですので、大変声の使い方などが上手で、とても聞きやすく、また小道具の使い方も上手だなと。あと少し今時の言葉も入れて楽しく見られるように。すみません、演目は「3まいのおふだ」という昔からあるとても有名なお話ですが、今時の言葉も入れたり、ちょっと自分たちで工夫して、セットなど小道具など使われて楽しく拝見できました。

2点目は、皆さんも参加していらっしゃると思いますが、2月7日土曜日の「みらい創造教育推進フォーラム」に出席しました。

毎年素晴らしい発表ですとか、またパネラーの方たちが、こんなに素晴らしい子がいるのかというふう感激させられる、飯田の未来が大変明るく感じられるような素敵な集い

だなど、いつも感じさせてもらっています。

今回、細かい内容というよりは全体として感じたのは、年齢層が上がるにつれて、高校ですとか専門学校の皆さんというのは、特に、より自らの将来の職業ですとか、仕事に直結するような取組であったなというふうに感じました。そんなふうに、自分の本当に生きていく道につながっていくことが素晴らしいなと感心させていただきました。

また、全ての発表で感じたのが、やはり実体験を重ねることで問いが深まるということでしたり、地域の人とのつながりでどんどん活動が深まっていくということです。

また、保育園もそうでしたし、小学校、中学校も、活動を次年度以降にもつなげていきたいという思いを出していただいて、その年代にかかわらず、課題解決への思いというものも感じました。

また、ちょっと感じたことは、発表そのものとは別ですが、特にクラス全体で同じことに取り組むといった場合に、やはりお子さんによって温度差っていうか、発表が得意か不得意かとか、活動中のものづくりが得意か不得意かみたいな、いろいろな差や違いが出てくるんだろうなということを少し感じました。ただ、その違いを自分も知ったり、ほかのお子さんもその違いや差があるんだなということをしっかり認めていく、認め合っていくというのも大切だなというふうに感じました。

また、パネルディスカッションの中で、会場にいた私たちも含めて対話の時間を取っていただきました。私と麦島さんのところにも、中学生の女の子が2人来てくれて、見知らぬ大人といきなり対話するというにとっても緊張すると思うんですが、さすが、なんかハキハキといろいろ答えていただいて、あとこちらがむしろちゃんとしなきゃっていうか、私にとっても、なかなか自分のことをこうやって語り合う、本当に一から全然知らない人と語り合う機会っていうのはあまりないので、非常に貴重な機会だったなというふうに感じました。

貴重な時間を持たせていただいたことに感謝しましたが、やはりどんなときも、どんなことでも、対話ってすごく大切だなということを、改めて感じさせてもらいました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

さらにいかがでしょうか。

では、野澤委員。

○教育委員（野澤稔弘） 推進フォーラムについて、いくつか報告をさせていただければと思います。

80 億という今の世界の人口の中で、2 億人の子どもがまともな教育が受けられていないというふうに言われています。

これは一月前に私の友人がメキシコへ行ってきた時の話ですが、横断歩道で待っていたら、隣に小学校ぐらいの子どもがいたそうです。信号待ちをしていたらドンって音がした。見たらボンネットの上に子どもが乗った状態だったそうです。驚きながらも見ていたら、当たり屋をやっているのかなと思ったら、車のボンネットに乗ってフロント硝子の窓拭きをしていたそうです。日本円で言うと 10 円ぐらいのお金を稼いでいたのだそうです。メキシコには未だにそのような子どもが普通にいます。世界では、このように日銭を稼がなければならない子どもが 2 億人いると言われ、そのうちの 1 億人は親がいないストリートチルドレンと言われています。フォーラム見ていて、本当に日本はいい国だなと実感しました。

子どもたちが、本当に自分がやりたいことや願いを大勢の前で話が出来て、そしてその子たちは、おそらくそういう道に進んでいくと思いますが、そんな環境があるというこの奇跡的な状態というのを、この国はつくっているのではないかなと思いました。実は今回のフォーラムを見て、子どもたちに対してそのような環境をつくってきた先人たちにも、すごい畏敬の念を覚えたというのが、あのフォーラムのときの感想です。

もう一つは、ちょっと穿ったことを思ってしまったのは、たくさんのいろんな子どもたちが「こういうことをしたい」、「ああいうことをしたい」、「将来こうありたい」って、やっぱり形のあるものなので、本当の本心から言ってくれてほしいなというふうにすごく思いました。

私が社長業をやっているときに、よく社員に話をしていたのは、「仕事をして苦しくなる時は、自分が本当にやりたいことをやっていない時と、仕事そのものに嘘がある時だ」と話をしていました。そのような時は絶対苦しくなるので、そういうふうにならないようにしてほしいと常々話していました。本当にあの場で、いろんな子どもたちが話をしていることが、本当に本心であってほしいなというのを思いながら涙腺が緩んでいました。

最後に、広島県三次市というところに知人がいて、三次も人口が 3 万 5 千人ぐらいでしょうか。地域の存続に危機感があり、教育において「地域を愛してもらいたい」みたいなことをやっているところはないかということで検索したら、飯田型がなんとらんかんたらって出てきた。「そういえば野澤がいるな」と言って電話がかかってきました。「7 日にフォーラムがあるから行きたいけど、用事があって行けない。いろいろ話したい」という話でした。その場でいろいろあった発表事例だとか、いろんなやっている内容だとか、そ

ういものをお話してもよろしいでしょうか。これはお伺いです。

○教育長（熊谷邦千加） もちろん。

○教育委員（野澤稔弘） 大丈夫ですか。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

○教育委員（野澤稔弘） どこの地域も大変な状況にあるみたいで、その方も「なんとか地元にも子どもたちが残れるようにしたいんだが、なかなかそういうことの活動ができてないので、何かしていきたいんだが、参考にさせてほしい」というふうにおっしゃっていたので、そういう意味では、中学校のリーダーの方々、17期っていう、やっぱり長く続けているというのは、本当に素晴らしいことだなというふうに感じました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

また、広島県三次市のその後のお話もしあれば、後日。

○教育委員（野澤稔弘） ちょっと行ってきます。

○教育長（熊谷邦千加） さらに。

麦島教育委員さん。

○教育委員（麦島真理子） 私も、同じく2月7日に、飯田市みらい創造教育推進フォーラムに出席させていただいた件をご報告させていただきます。

まず、「わが家の結いタイム三行詩」の授賞式では、受賞者のインタビューで、かわいい園児さんから反抗期真っ只中の子どもさんを育てているお母さんまで、作品に込めた思いをご本人から聞くことができ、とても微笑ましく見させていただいたり、共感したり、ほのぼのとした幸せな気持ちになりました。

第一部の各発表では、それぞれ個人や団体の皆さんが、ムトスの学びの通り、問いや願いを持ち、地域の人たちと関わりながら、自分にできることを見つけて行動し、様々な気づきを得たり、未来への目標を語る姿に感動させていただきました。

特に、その中でも、飯田高校三年生の内山さんの発表では、私も同じような悩みを持つ方とお話しする機会があるのですが、実際、地域の乳幼児学級や飯田短大の支援施設に行き、今まさに子育てをしているお母さんたちがどんなことに困っているかや子育て支援としてどのようなことを必要としているかという生の声を多く聞いて、それを伝えてくれたことが、私自身非常に勉強になりました。

第二部のパネルディスカッションでは、パネリストの皆さんの熱い思いが伝わってきて、私も林委員と同じく感動しきりで、「皆さんが地域に還元したい」とか、「最強の保育士に

なる」、あと「医師になりたいと決めている」ということに感激して、非常に飯田の未来は明るい、希望や期待が湧いてくるような気持ちになりました。

実際、会場でこのような姿を見聞きしていた小中学生の皆さんにとっては、非常に刺激になった機会であったと思いました。

途中2回、自分の好きや関心について、「どんな未来を思い描いているかとか、どんなことがやれそうか」というお題で話し合いの機会が持たれ、私は林委員と一緒に中学生の女子生徒2名とお話ししましたが、自分の好きとか関心のあることの話をつきかけにすると、とても話しやすいんだなということを感じたり、話も膨らみ、本当に人と話すこと、つながること、あと他者に何を貢献できるかということを経ることが、とても大切だなと改めて感じました。

ほかにも中学生の意見や感想の発表、あとリンゴジュースの販売など、とても積極的な姿が見られて素晴らしいなと思いました。

最後に、ファシリテーターの方がおっしゃっていたように、「私たち大人も夢や希望を持ち、ワクワクした姿を子どもたちに見せられるように、日々過ごしていきたい」と私は思いました。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

じゃあ、北澤職務代理、お願いします。

○教育長職務代理者（北澤正光） すみません、5つほどになってしまうので、かいつまんで申し上げます。昨年この場でご報告しましたが、今年もこの時期になると、下伊那教育会とか先生方の研修の様子を発表される機会に何回か行かせていただきました。

その中で、1月23日からですが、下伊那の先生方、郷土調査部というのと教科等の委員会で、それぞれ分かれて8人ぐらいずつ、昔は指名されて「あなたは国語の委員に」とか言われて、例えば教育長や私も一緒に国語の委員に指名されて、国語の教科についての指導の仕方を研究したりして、全郡へ発表するようなことだったので、今は先生方が自分から手を挙げて「自分はこの委員会に行って研究したい」というようなふうの手挙げ方式を主にしているようですが、その中で、郷土調査部の研究発表というのがあって、全部で8委員会あるのですが、前は8委員会全部が発表していましたが、最近は4つずつに分かれて、2年間かけて研究した結果を発表するというようになっていて、今年は地質・歴史・気象・西尾 実研究委員会というのが発表しました。

例えば、地質委員会は「下伊那地域の地層の露頭に見られる岩石と火山灰、化石」とい

うようなテーマで研究結果を発表されていました。それから歴史委員会は「天狗党の行軍と伊那谷通過」というような、要は水戸の浪士が850名近く尊皇攘夷を訴えて京都を目指していくという、その行軍の途中ですが、当時の幕府は、それは賊軍だから征伐するようにというお触れが出ていたものです。それが水戸を出発して、ずっとこの伊那谷を歩いていくのですが、下伊那の水戸浪士に対する待遇は、ほかの地区とは全く違う待遇をしていて、上伊那までのところは賊軍だから追討しようとして迎え撃つわけです。ところが松川町から下伊那に入った途端に、宿屋を提供して泊めてあげて、食事やお酒まで提供して、阿智村まで穏便に通過させるというようなことが起こるのですが、なぜそんなふうの下伊那地区だけ、その賊軍と言われた浪士たちを厚遇したのかということの考察がされていて、結果は、この伊那谷は国学が非常に盛んな土地柄なので、賊軍という扱いをしなかった。その証に、例えば今も丸山公民館の入り口のところに、その浪士が詠んだ短歌が歌碑として立てて顕彰してあるというようなことでも示されるというような話で、とても興味深い中身でした。

同様に、気象委員会の発表も、南信濃の観測所がいつも県内でも最高気温を夏に出しています。それと飯田測候所の気温の違いがなぜ出るのかというところの考察を2年間、この伊那谷と南信濃の5カ所、ほぼ海拔が同じ高さのところを定点観測して、そのデータから考察したものなのですが、その結果でいくと、測候所で発表されるのは南信濃がすごく気温が高いというふうに出るが、実際に2年間計測していくと、気温が一番高いのは竜峡中学校のところと、それから豊丘北小学校のところのほうが圧倒的に高い。それに次いで松尾小学校の観測点となっている。なのに、なぜ南信濃のところが高いという発表が際立つことになるのかというと、南信濃の測候所は海拔410メートル。飯田測候所は516メートル。そうすると、理論上でいくと0.65度の気温調整が必要になるのだが、実際に出た温度だけで発表されているから、南信濃だけがいつも高いように思われるが、実際は南信濃よりも伊那谷側のほうが気温は高いとい発表でした。

理由は、「伊那谷は海からのフェーン現象で、熱風がこの伊那谷をそのままは吹き抜けていくから、非常に気温が高いのだ」という。南信濃は山を一つ越えて向こうへ行くので、フェーン現象の影響を直接は受けないというようなことがあって、実際どちらのほうが日常的に高いかというような研究結果だったりして、非常に興味深かったです。

あとは、西尾実委員会は、緑ヶ丘中の校歌を監修したのは西尾実先生なのですが、その経過等を考察していて、これも興味深かったのですが、ちょっと時間がないので省きます。

そんなふうにも、先生方も今、子どもたちに対して「ムトスの学び」で探究とかと盛んに

言っているのですが、先生方も結構、そういう探究の主体的な学びの姿を見せてくれていて、なおかつ 30 代の先生方が発表者になって発表している。その後ろではベテランの先生方が細かいところまで一緒に関わって、表では 30 代が活躍しているという、そんな流れをつくってくれていて、とても心強いなあというふうに思いました。

同じことが 1 月 30 日、これは教育長も参加されましたが、もう一つのほうの委員会「全郡教科等まとめの会」というのがあって、飯田下伊那の学校は午後半日をお休みにして、先生方がそれぞれの場所に分かれて研修するという機会がありました。中心講師は、東中の信大サテライト教室に常駐されている山浦貞一さんで、一年間郡内のあちこちの教室を回ってご指導されてきたものをまとめて講演されるというものでした。そこで山浦先生が 20 代 30 代の先生方の教室での指導の様子を意図的に取り上げて、全郡に発信をしてくれていて、そこでもやっぱり若い先生方を前面に出して育てようという、そんな意図が非常に感じられて、それもとても心強いし、ありがたいことだと思ってお聞きをしました。

それから、もう 1 点は、2 月 8 日ですが、下伊那の音楽教育研究会という音楽に関わっている先生方の研究会、そこで毎年、オペラを発表したり、ご自分の得意な管弦合奏とか合唱とかを発表されたりする機会が文化会館でありました。そこも行かせていただきました。文化会館の 1 階のホールが広いと感じないくらい大勢の観客が詰めかけていました。選挙と雪の日だったのですが、ここでも先生方の研鑽しよう、専門性を磨くぞというそんな思いがとても感じられました。

「働き方改革云々で、先生方は自分の研鑽の場面すら放棄してしまうのか」という声もあるが、今 3 つの研修をされている様子を見ると、まだまだ先生方、捨てたものではないな、頑張っているなという思いを強くしました。

最後は、みらい創造教育のフォーラムで、今、委員の皆さんからもありましたが、私がいいなと思ったのは、中学生が自主参加とかで、フロアのほうに例年になくたくさん参加していて、充実した発言の聞き合いになったことです。主には、東中、旭中、竜東中の子どもたちだったように思いますが、来年はさらにフロアに来る一般の中学生がもっと増えると、ああいう姿の中から刺激をお互いに受けて、本当の意味のみらい創造教育になっていくのかなと思いました。

ちょうどその場に、根羽と天龍村の教育長さんが参加されていて、「来年はぜひ自分の村の中学生たちをこのフォーラムに参加させたい」と言っていました。「人数が少ない中学校で小さく固まっている村の子どもたちに、同世代がこんなふうに自分の将来を考えているとか、地域の未来を考えているというのぜひ学ばせたい」というふうにおっしゃっていて、

多分来年は本気で連れてくると思います。

以上です。

○教育長（熊谷邦千加） ありがとうございます。

それでは、それぞれご発言いただきましたが、何かご質問やご発言ございますか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） 貴重なご報告をいただきました。ありがとうございます。

（２）教育次長報告事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは、続きまして（２）番、「教育次長報告」ですが、別件会議で不在のため次へ進みます。

（３）教育政策課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （３）「教育政策課関係報告事項」。

○教育政策課長（上沼昭彦） 本日はございません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（４）学校教育課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（４）「学校教育課関係報告事項」。

○学校教育課長（伊藤 寿） ございません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（５）教育センター関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では、続いてまいります。（５）「教育センター関係報告事項」。

○教育センター所長（北澤孝郎） ございません。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（６）生涯学習・スポーツ課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （６）「生涯学習・スポーツ課関係報告事項」。

後藤生涯学習・スポーツ課長。

○生涯学習・スポーツ課長（後藤武志） 先ほどは、みらい創造教育推進フォーラムにご参加されたの感想のほう、大変ありがとうございました。

また、アンケートの結果につきましては、改めて3月の定例会でご報告させていただきます。参加人数のほうですが、昨年度が272名のところが、今年は321名ということで、非常に中学生や小学生の参加が倍以上に増えたというところが、非常に盛り上がり、かなり貢献していただけたかなと思っております。

中学生からの感想も寄せられておるんですが、それぞれの内容に対しての気づきがあったり、そのことがその本人のこれからの生き様というか、人生に対しての非常にいい刺激になっているというのが伝わってきております。詳しい感想の内容につきましては、来月ご覧いただければと思っております。大変ありがとうございました。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（7）文化財保護活用課関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） では、続きまして（7）番、「文化財保護活用課関係報告事項」。

○文化財保護活用課長兼考古博物館長（下平博行） 特にございませぬ。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（8）公民館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続きまして（8）「公民館関係報告事項」。

○市公民館副館長（小林和弘） 特にございませぬ。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

（9）文化会館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） （9）「文化会館関係報告事項」。

筒井文化会館館長。

○文化会館館長兼新文化会館整備室長（筒井文彦） それでは、2件お知らせをさせていただきます。

データとチラシがお手元にあるかもしれません。

一つは、「いいだ人形劇まつり」ということで、今週末15日でございますが、「りんごっこ劇場」ということで、地元の人形劇団の皆さんが実行委員会形式で、毎年行っております人形劇のおまつりというところでございます。

会場は、飯田短期大学の地域響流館ということで、アカシアホールという場所で行います。ちょうど、公民館大会の日の午前中でございますが、お時間があれば、ぜひお越しただいただければと思います。

竜東中学校の人形劇部も出演予定だったんですが、残念ながら、急遽、都合により欠席ということになっておりますが、先ほど、ご覧いただきました飯田短期大学のサークルの皆さんも上演していただきますので、ぜひお時間があれば、お越しただいただければと思います。

続きまして、「オーケストラと友に音楽祭 2026」のご案内でございます。

こちらのチラシがお手元にあるかと思いますが、期日が5月3日から6日までと、ゴールデンウィーク中でございます。

今年もまた視察の機会を設けたいと思っておりますので、ご案内は、改めてさせていただきたいと思っております。チラシの中面を見ていただきますと、今年が目玉といたしまして、毎年、名古屋フィルハーモニー交響楽団とのコンサートなのですが、今年は、実は地元の旭ヶ丘中学校の今年一年生、今度の二年生になりますが、熊谷謙志さんがソロデビューをするということで、名フィルとの共演ということでございます。

熊谷さんに関しましては、小学校一年生のときから名フィルのクリニックに通っていらっしゃったということでありまして、名フィルが名古屋で募集する子どもコンクールに、かつて募集されたということがきっかけになりまして、今回、名フィルの指揮者である川瀬さんの推薦を得て、共演が決まったということでございます。

その他、音楽クリニックですとか、そのコンサート、各地域で行います、そよかぜコンサート等々ございますので、ぜひご参加いただければと思います。

説明は以上です。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

もう少し進みたいと思っております。

(10) 図書館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） それでは（10）番、「図書館関係報告事項」。

瀧本中央図書館館長。

○副参事兼中央図書館長（瀧本明子） お願いします。

図書館から2点お願いします。資料の6ページからご覧ください。

昨年11月に行いました、令和7年度飯田市児童・生徒読書調査の結果をご報告いたしま

す。

昨年度に引き続きまして、飯田市の小学校三年生から六年生までと中学生を対象に読書調査行いました。小学生・中学生ともおよそ8割の児童・生徒の回答をいただいております。

7ページをご覧ください。

7ページの中段から、質問2では、「読書が好きかどうか」を質問しています。小学校ではおよそ8割、中学校は7割の皆さんが「読書が好き」、「どちらかというが好き」と回答しています。

それから、次の8ページの間3は、「おもしろい本や感動した本に出会えたかどうか」という質問では、小学生が8割の児童、中学生がおおよそ7割の生徒がおもしろい本や感動した本に出会えたと答えております。

そして、10ページを見ていただきますと、10ページ、質問5は、「学校の授業とか『読書の時間』ではない時間で、1週間にどれくらいの時間本を読んでいますか」という質問です。こちらにつきましては、週に30分以上読んでいる児童・生徒は、一定の時間、自発的に読書をしていると考えられますが、その割合が小学生ですと42%、中学生ですと39.6%ということで、どちらもおよそ4割の子どもが週に30分、多いとは言えないんですが、一定の時間、自発的に読書をしているというふうに考えられます。

この質問5の一番右の欄に「読まない」という欄がありますが、1週間に本を全く読まないという割合がここのところに出ております。こちらの「読まない」という割合ですが、次の11ページの質問は「1か月で本を何冊くらい読みましたか」という質問ですが、こちらのほうにも1か月に1冊の本も読まない不読者、0冊という子どもたちがいます。さっきの間5の自発的に読んでいるかどうかの質問での「全く読まない」という割合と、質問11の学校の授業や読書を含めて1か月に1冊も読まない不読者の割合を比較しますと、学校の読書を含めると10ポイント以上不読者の割合が下がるということで、自発的には読まなくても、学校の授業や読書の時間があると読書に親しむことができる児童・生徒がいるということが分かります。学校での取組が大切になるというふうに考えます。

そして、ちょっと進んでいただきまして、13ページの質問7をご覧くださいと、先ほどの質問5と6で「本を読まない」と答えた児童・生徒の本を読まない理由で多いのが、「他にしたいことがある」ですとか、「テレビやネットのほうがおもしろい」、それから「読みたい本がない」というものです。特に、五年生以上になりますと、その数が増えてきます。

読みたい本がない割合が高いことにつきましては、高学年以上の子どもたちが読みたい本と出会う機会を、どのようにしてつくるかというのが課題であるというふうに考えております。

それに関連しまして、17 ページを見ていただきますと、質問 11 で「どのようにして本を選ぶか」ということ聞いております。本の選び方の回答を見ますと、「友達に聞いた本」とか、「友達が読んでいた本」が多いということが分かります。この結果からも、子ども同士のお薦め本の紹介の機会をつくるなどして、工夫をして、子どもたちが本と出会うの機会をつくっていくことが必要だと考えています。

上郷図書館で、ワークショップを年 3 回ほど開催したのですが、その中で行った「味見読書」という、紹介された本を少しだけ読んでみる体験をするというものを、学校司書の方が学校に持ち帰って子どもたちとやってみたところ、普段手に取られないような本が取られるようになったというような事例も聞いております。

以降 18 ページ・19 ページは「よむリス」について聞いておりますが、こちらはまたご覧いただければと思います。

3 月の初旬に学校司書の皆さんと一緒に調査結果の考察を行う予定でおりますので、その結果を来年度の学校図書館や市立図書館の取組に生かしていきたいというふうに考えております。

次に、もう一つの資料、アンケートの次のページですが、図書館のビジネス支援講座のご案内です。

「A I の上手な使い方」ということで、2 月 28 日にビジネス支援講座を行います。

近頃、あちらこちらで A I についての講座が行われていますが、図書館でも A I に関する本も非常によく借りられております。

「使い方の講座をやってほしい」という声もありましたので、この講座では、少し A I を使い始めた皆さんに、自分が使っている中で疑問に思っていることを出していただきながら、A I の使い方のコツを伝えていただくという予定でおります。

講師は、飯田市の起業家ビジネスプランコンペでも、最優秀賞を受賞されました大曾根さんにさせていただく予定です。

図書館からは以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(11) 美術博物館関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） さらに進みます。（11）番、「美術博物館関係報告事項」。

榎村美術博物館副館長。

○美術博物館副館長（榎村洋介） 美術博物館からは、2点お願いいたします。

資料の22ページでございます。

藤本四八小中高校生写真賞ですが、2月7日に表彰式を行いまして、受賞作品の発表をいたしておりますので、そちらのほうのご案内をさせていただきます。

藤本四八賞につきましては、今年度は追手町小学校の二年生の方の作品が受賞しました。小学校二年生の児童なので、一番若い方の特賞でございます。美博の建物を写した印象的な作品になっています。

小学生の部ですが、ここに示しています4名の方が受賞しております。このうち、一番最後の館長賞ですが、そちらの方も上村小学校の二年生の児童が受賞しているということで、今回は低学年の方の作品にいいものが多かったのと、小学生の作品に目立ったものがあつたということでございました。

中学生の部は、お二方の受賞になっています。今年は中学生の部が応募が少なかつたものですから、8点の応募でしたので、賞は2つということになりましたが、作品は少ないですが、とても表現的で印象的な作品が多かつたという印象でございます。

高校生の部は4点の作品でございます。全て飯田女子高校の皆さんでございます。クラブ活動で写真が非常に盛んでございますので、その辺の日頃の成果が出たのかなというふうに考えております。

展覧会につきましては、2月23日までは美博のロビーで、それから3月2日から3月13日まではしんきんロビーのほうで展示いたしますので、機会がありましたらご覧いただければと思います。

続きまして、3月の美博ニュースでございます。いくつかご案内させていただきます。

まず、プラネタリウムですが、3月20日に「プラネタリウムまつり」を開催いたします。「たいようくんとおつきちゃん」という番組、「ムーンベース」という番組、この2つについて無料でご覧いただける機会となっております。また、その日の午後には天文講演会を開催いたします。「わくわく月世界ツアー」ということで、JAXAで解説員をされていまして大川さんという方がいらっしゃるんですが、その方をお迎えしまして、現在の月探査についてお話をさせていただきます。

それから、星の観望会ですが、3月3日が皆既月食ということでございますので、当日に観望会を行いたいと思っております。

次のページにまいりまして、「びはく学芸祭」です。

こちらは、美博の学芸員や専門研究員、それから美博と関連して研究していただいている団体や研究者の皆さんの一年の調査研究活動をポスターによって発表していただくというものになっております。

ポスター発表期間は3月14日から3月29日で、美術博物館のロビーに掲出させていただきます。また、ポスターセッションとして、3月21日は実際の発表者がポスターの前で皆さんにご説明するという機会を設けますので、参加いただければというふうに思っております。

それから、「ゼロから始める古文書講座」ですが、これは令和8年度の受講生の募集ということでございますので、ご興味のある方は参加いただきたいと思います。

それから、美術講演ですが、3月28日に蜂谷充志、当館の館長が講演のお話をさせていただきます。館長が講演するのは就任以来初めてということですので、ぜひお越しいただければと思います。

また、考古博物館ですが、3月17日から5月10日、速報展として「掘るしん 2026 in 飯田」ということで、リニア関係の発掘の調査報告も含めて、速報展を行う予定でございますので、ご覧いただければと思います。

美術博物館からは、以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

(12) 歴史研究所関係報告事項

○教育長（熊谷邦千加） 続いてまいります。(12)番、「歴史研究所関係報告事項」。

牧内歴史研究所副所長。

○歴史研究所副所長（牧内 功） それでは、資料編25ページをご覧ください。歴研ニュース140号でございます。

聞き取り入門講座、表紙に掲載してございますが、歴史研究所では、オーラルヒストリーと申しまして、文献に残らない人々の体験や記憶を関係者が聞き取りまして、語られた内容を記録・保存することに取り組んでまいりました。これまでに、満州移民や飯田町の暮らし、飯田大火や三六災害など、当時の関係者から聞き取り、書籍にまとめてまいりました。今回の講座は、この聞き取りを行う「聞き手」となる人材の育成を目的にした事業となります。

当研究所の顧問研究員の安岡健一さんを講師に、2月21日には講座編としまして、美術

博物館講堂を会場にしまして、実際にお話聞くとときに気をつけること、機材の使い方など、聞き取りに必要な知識や技能を学びます。

次に、実践編としまして、下段にあります3月6日から8日に松尾の「ほっ湯アップル」の会議室で戦後の飯田の農村風景の写真を展示する「戦後の飯田写真展」の会場におきまして、来場された方々から写真を見ての思い出や感想など聞き取り、それを実際に記録に残していくと、そこまでを体験していただきます。

続いて、26・27 ページになりますが、研究紹介としまして、昭和初期に長野県内の学校や工場など大きな建築物の設計に関わり、飯田市内では追手町小学校、高陵中学校、下伊那教育会館などの設計をした建築家久保田正吉について、資料調査から確認できた経歴や業績、あとは建築調査で分かった当時の木造建築の構造につきまして、松尾小学校や旧松尾村講堂を例に挙げて紹介しております。

最終28ページは、前回配布しました年報23号の内容と、中段以下は歴研ゼミの2月・3月の開催予定について、それぞれ掲載しております。時間のあるときにまたお目通しいただければと思います。

以上でございます。

○教育長（熊谷邦千加） それでは、文化会館から歴史研究所までの報告ございました。

何かご質問、ご発言等ありましたらいただきたいと思いますが、いかがでしょうか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

全体として何かご発言しそびれたこと、聞きそびれたようなことがありましたら。

北澤職務代理。

○教育長職務代理者（北澤正光） 図書館からの読書調査、興味深く見させていただきました。

1か月に1冊も読まないという子が、このパーセントで見ていくと、小学生で大体5%ぐらい、それから中学生で9%ぐらいになりますよね。

多分、学校でも悩んでいると思うのですが、全校朝読書の位置づけというか、日課表を見せてもらうと、まだかなりの学校が全校朝読書を、毎日じゃないにしても週何回か入れている学校が多いように見ているのですが、全校朝読書の位置づけがある学校のお子さん、ない学校のお子さんとで、1か月に1冊も読まないというお子さんのパーセンテージに違いがあるのか。要するに、全校朝読書であると半分強制でもあるかもしれないが、否が応にも読まざるを得ない時間が、たとえ10分間だとしても何日か設定されるわけですよ

ね。その辺に何か違いがあるのかなと思いつつこのデータを見ていたのですが。

○教育長（熊谷邦千加） 瀧本館長。

○副参事兼中央図書館長（瀧本明子） 各学校の統計を現在出しているところでありまして、出たところで、全校読書があるところとないところは把握していますので、比較をしてみ、また今後ご報告できればと思います。

お願いします。

○教育長職務代理者（北澤正光） なんてそんなことを聞いたかという、校長先生方とこの間まで面談の機会がありました。お話をお聞きしている中で、一週間の日課の中で、あれもやりたい、これもやりたいということになって、例えば人間関係づくりをするためにスリンプル・プログラムを入れたいと。入れるについては、毎週朝の 10 分間、学活が始まる前の 10 分ぐらいのところの時間をどういうふうにするかという。小学校だと全校体育というか、さっき体力テストの結果の発表もあったのですが、全校で運動する時間も入れたい。それから、この読書も大事なので読書の時間も入れたい。不登校が増えてきているから、校長先生方の何人かの中では、月曜日の朝を、何か子どもたちが楽しみにして学校に来られるような時間にしたいとかと、まさに朝の 10 分ほどの時間がいろんな活動を入れたいというせめぎ合いの中で、削る対象が読書とお掃除になってきているのですね。午後のお掃除を削ってそこに何かの活動を入れるか、先生と子どもが直に話ができるような時間にしたいとかですね。

限られた時間の中でどれも大事なのですが、やりたいものがいっぱいある中で、結構読書の時間のところを、今まで 4 回やっていたのを 3 回にするとかみたいなふうに、削る対象になっているような話も聞くものですから、このデータなんかで、読書は大事ですよという説得力になるようなことになるのかちょっと気になったのでお聞きしました。

○教育長（熊谷邦千加） そのほかございますか。

よろしいでしょうか。

（発言する者なし）

○教育長（熊谷邦千加） はい。

それでは、各課・館所の報告事項は以上といたします。

(13) 今後の日程について

○教育長（熊谷邦千加） (13) 番、「今後の日程について」。

北澤総務係長。

○教育政策課総務係長（北澤五月） それでは、(13) 今後の日程についてをご覧ください。

今週末の日曜日になりますが、12時15分から教育功労者表彰式が、13時からは公民館大会が予定されております。鼎文化センターとなりますので、よろしくお願いいたします。

2月16日及び24日には、第5回の校長会及び教頭会がございます。こちらは既にお知らせが届いていると思いますが、両会議の終わりに教育委員の皆様には、お一人1分程度、今年度の学校の様子をご覧になっての感想などお話しただきたいと担当からいただいておりますので、よろしくお願いいたします。

2月17日には、小中一貫推進会議が15時から予定しております。先ほどの校長会、教頭会、そして小中一貫教育推進会議は、C311～313の会議室で行いますので、よろしくお願いいたします。

3月の定例会は、来月13日にこちらの会場で予定しております。

また、先ほど協議事項にもご提案がありましたとおり、3月17日及び18日は卒業式がございます。詳細の集合時間や集合場所につきましても、先ほどありましたとおり、資料の36ページをまたご確認いただければと思います。

年度末の31日ですが、令和8年の第1回臨時会を10時から、こちらの会議室で、その後に永年勤続の先生方の表彰伝達式、校長離任式が予定されておりますので、よろしくお願いいたします。

今後の日程については、以上となります。お願いします。

○教育長（熊谷邦千加） はい。

日程について何かご質問、ご意見ございましたらお願いいたします。

出ていただく機会が大変多くて恐縮ですが、明後日はまずは12時15分ということで、早くお昼を食べないといけないと思いますが、よろしくお願いいたします。

よろしいですかね。

（発言する者なし）

日程第10 閉 会

○教育長（熊谷邦千加） では、ご発言がないようですので、以上で教育委員会定例会を閉会といたします。

お疲れ様でした。

閉 会 午後 4 時 3 0 分